

不完全競争の例—独占市場

なぜ市場独占は規制されているのか

復習：完全競争市場での企業の供給

企業の目的：利潤最大化

$$\text{Max} \pi(q) = pq - c(q)$$

$$\pi'(q) = \frac{d\pi}{dq} = p - c'(q) = 0 \rightarrow p = c'(q)$$

財価格と限界費用が等しい時に利潤最大

$$\pi''(q) = \frac{d^2\pi}{dq^2} = c''(q) < 0 \rightarrow c''(q) > 0$$

言い換えれば限界収入 $\text{MR}(q)=P$ と限界費用 $\text{MC}(q)=C'(q)$ が等しい場合に利潤最大

独占市場での独占企業の供給

企業の目的：利潤最大化

しかし、企業は価格を所与として行動する必要がない＝自由に価格を設定できる

独占市場で価格はどのように決まるか

独占企業の限界収入

$$R(q) = pq$$

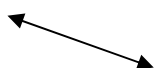
しかし、今、財価格 P は独占企業の行動に左右される

具体的には独占企業が市場にどのくらいの量を供給するかによって影響を受ける。

P は供給量 q の関数となる

$$R(q) = p(q) \times q$$

完全競争市場
 P は一定（所与）



$$MR(q) = \frac{dR(q)}{dq} = p(q) + \frac{d(q)}{dq}q$$

$$= \text{価格} + (\text{生産量増加に伴う価格下落幅} \times \text{生産量})$$

$$= p \times (1 + \frac{dp}{dq} \cdot \frac{q}{p})$$

$$= p \times (1 + \frac{\frac{dp}{p}}{\frac{dq}{q}})$$

$$= p \times (1 + \frac{1}{dq})$$

$$\frac{\frac{q}{dp}}{p}$$

$$= p \times (1 + \frac{1}{\text{需要の価格弾力性}})$$

$$p - \frac{dp}{dq} q$$

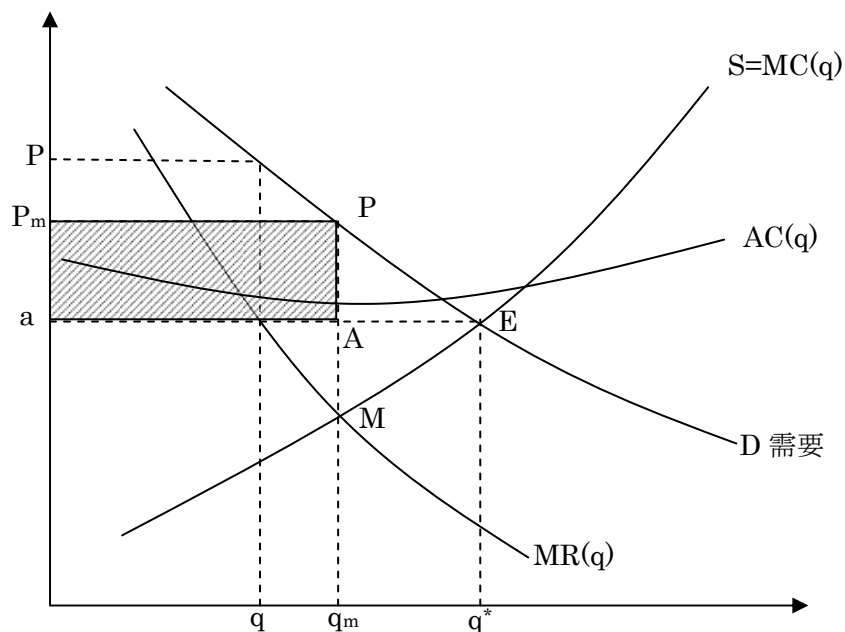
独占企業は $MR(q)=MC(q)$ となる点 M で生産

その時の独占供給量は $q_m < q^*$

独占価格は $P_m > P^*$

この時の独占企業の利潤、および死荷重損失を考える

これが $MC(q)$ に等しい点で独占企業は供給をおこなう



この時、独占企業の利益は
斜線部分 ($P_m P A a$)
市場の死荷重損失は
 $\triangle PEM$

それでも市場独占が存在するケース

(1) 固定費用(埋没費用)が高い場合

$$C(q) = VC(q) + FC$$

$$AC(q) = \frac{VC(q)}{q} + \frac{FC}{q}$$

もし $C(q)$ のうち FC が大部分を占めていれば q を増やせば増やすほど AC が低下する
鉄道、電力、ガス、鉄鋼

(1)' 参入障壁が高い

規制など

(1)" 先発の利益

後発企業は最初の P が高いので超過供給になりやすい

(2) 特殊な生産技術財

財の同性が成立している場合

生産ノウハウの蓄積

市場の失敗

財・サービスを取引できる市場が存在しないことにより社会的に望ましい資源配分が実現できない状態

市場の存在しないケース

(1) フリーライド可能な財

誰かが作れば他人もそれを使える財

非競争性 — 複数の主体

非排他性 — 排除できない

国防、司法、消防、道路、公園

(2) (技術的) 外部性

取引のない2者間で利益・不利益が生じる場合

知識の流出、公害、日射権

(3) 埋没費用が莫大な財

電力、ガス、鉄鋼

(4) 将来の不確実性

将来十分な利益が出るか分からないので民間企業があまり生産しない財。

医療、初等教育

これらの場合には政府が市場に介入しても正当化される。